

市民と野党の共同を広げよう！

憲法改悪阻止の展望を語る



西京革新懇が改憲阻止の展望を語る集会開催

10月16日、西京革新懇は、「憲法改悪阻止の展望を語る集会」を境谷会館で開催しました。富田宏治（関西学院大学）教授の話は、説得力があり、参加者に勇気と確信を与えるものでした。以下、講演の要旨を紹介します。

追いつめられているのは改憲勢力の側だ！

7月の参議院選挙で改憲勢力が衆参で3分の2を占めた。しかし、改憲勢力は13年の89議席から77議席に後退した。次の選挙（19年）で85議席以上（3分の2ライン）取ることは至難の業だ。次の参院選挙までの3年間は「改憲」の唯一のチャンスとなる。逆に言えば、この3年間で踏みとどまれば、改憲の企みを阻止できる。その間に衆議院選挙もある。衆議院で3分の2を割り込ませれば、改憲の流れをストップできる。世論調査では、「憲法を変える必要はない」55%、「必要がある」37%と、この3年間で逆転している。タイムリミットに直面し、追いつめられているのは、改憲勢力の側だ。

大量棄権層が選挙を左右

先の参院選で市民と野党による画期的な共闘が実現し、11選挙区で勝利した。共闘が投票率を押し上げる効果をもたらしたが、大量棄権層の受け皿としては未成熟だ。

「小泉構造改革」「政権交代」「ハシズム」の「風」に煽られ、失望し、行き場を失った大量棄権層は、全国で2000万人。この層には、もはや「風」だけの「空中戦」は通用しない。対面的な政治対話を通して支持を広げる「組織戦」「陣地戦」が必要だ。大阪の「住民投票」で勝てたのは、徹底した組織戦を行った結果、大量棄権層（有権者の17%、約40万人）が投票所に行き、その内の30万人が反対票を投じたからだ。



保革を超えた「オール沖縄」のような共同を！

京都は、民進（旧民主）に不信感を持つ人が多いので言わせていただく。「お互い様」の精神が大事。香川では、民進党の側の不信感が強かったが乗り越えた。道理が互いを歩み寄らせた。民進も市民の共同という大義は裏切れない。保守層の中にも「経済保守」（新自由主義）、政治保守（靖国派）と相容れない「社会保守」が存在し、「オール沖縄」のような保革をこえた共同の可能性が広がっている。新潟知事選挙では保守層を巻き込んだ共同がすすんでいる。

衆院選に向けて野党4党が候補者調整の話し合いを始めた。朝日によれば、一本化の単純試算でも59の選挙区で逆転する。市民と野党の共闘が進化すれば、与党を過半数割れに追い込むことも可能となる。大量棄権層をターゲットとした、地味で、地道で、地を這うような組織戦が「敷布団」となり、幅広い市民の共同が「掛布団」となって、日本の新たな民主主義運動を発展、成熟させることができる。（文責編集担当）

講演を聞いた参加者からは、「大変わかりやすく確信が持てる話だった」「保守と反動を区別して、幅広い共同の追求が必要と感じた」などの感想が出ていました。（参加者41名）

革新懇に加入 しませんか！

西京革新懇では
新規の加入者を
募っています。

会費 年400円
全国革新懇ニュース
購読料1,800円

連絡は、尾池まで
090-1024-6008